

## ごあいさつ

創業者である村松孝一がフルート製作を始めたのは大正12年のこと。

大正・昭和・平成・令和へと時が流れ、社会環境の大きな変化にあわせて組織・業態を大きく変更する企業が多く存在する一方で、弊社はひたむきに「フルート」に専念し続け、本年、創業100周年を迎えました。100年続く企業へと成長を遂げることができたのは、先人達や現従業員が幾多の困難への挑戦を繰り返し、日々の尽力を続けてきた結果のみならず、長期にわたる取引先各位の多大なるご理解とご協力、そしてお客様のひとかたならぬご支援の賜物とあらためて認識し、弊社に関わるすべての方々に深く感謝申し上げます。

100年先については想像にも及びませんが、これまでに積み上げた伝統の本質を踏まえながらも、時代の変化を感受し革新を忘れることなく、少しでもみなさまのご期待に添えるよう努力や挑戦を継続していくこと。その小さな1つ1つの積み重ねこそが次の100年を築く大切な礎となることをしっかりと肝に銘じ、弊社がこれまで以上に必要とされ、共感される存在であり続けるために、日々の活動に全力で取り組んでまいります。

これからも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく  
お願い申し上げます。

令和5年10月

株式会社 村松フルート製作所  
村松楽器販売株式会社

代表取締役社長 村松明夫



---

## フルート界の 未来のために

### ● 研究部長 大谷内 亮



1923年、弊社は関東大震災のあった年に創業しました。ヨーロッパ発祥のフルートという楽器を正しい製作方法も解らず、手探りで始めた创业者の苦難は想像を絶するものであったに違いありません。奇しくも、本場ヨーロッパのメーカーがほとんど見当たらなくなってしまった昨今、弊社のみならずフルート界の未来も正に転換点に差し掛かったと考えています。

現在、製作所では約100名のスタッフがフルート製作に従事し、常により良いフルートを製作するために、日々、技術の向上と創意工夫を重ねています。フルート製作者として大きく成長しようと努力を続ける若い世代へ、確固たる技術・理念を伝えていくことも大切な使命だと感じています。私も製作に携わる一員として、これまでに新しいフルートの開発、現行モデルの見直しと改善、治工具の開発・設計・製図など、洗練されたフルートを製作することが、つまりはフルート界の発展に繋がると信じて取り組んでまいりました。

フルート1本に約300ある様々な部品、様々な製作工程に一切妥協することなく、これからも奏者の音楽をサポートする「見てよし、吹いてよし、長く使ってよし」の三拍子揃った本物のフルートを作っていきたいと思っています。

---

## ムラマツの哲学を 次世代へ

### ● 製造部長 田中 洋行



製造部は資材管理課から始まり、製造一課から六課までとソノリテ課が所属し、約80名の職人がフルート製作に携わっています。研究部で開発される新しいモデルや部品などのアイデアを形にすることが私たちの使命です。私は入社以来、製造六課、製造二課を経て現在のポジションを務めていますが、様々なセクションで、様々な先輩方から教わったことが生きていと実感しています。例えば、総銀製モデルを振り返った時、1964年頃に製作が始まったスタンダードは、1981年にはAD、2003年には同じ総銀製モデルのDNと統合されDSへとモデルチェンジを行ってきましたが、製作に対する根本的な考え方は全く変わっていません。フルートに対するムラマツの哲学は一貫して「奏者のための最高の道具たれ」ということに尽きるのです。

この10年くらいの間に団塊の世代がいなくなり、平均年齢が若返りました。不安はなかったと言えど嘘になりますが、フルートに対する姿勢と基礎的な製作技術はしっかり継承され、前任者から若い世代にバトンを渡すことができたと確信しています。そして、これから先もそのバトンを落とすことなく、創業100年をひとつの通過点として、ムラマツの哲学が次の世代に受け継がれてゆくことを願っています。